

平成 28 年度豊田市区長会総務委員会報告書

今年度の総務委員会では、いつ発生してもおかしくないと言われている「東海地震」や「南海トラフ地震」などの巨大地震に備え、その地域にあった「**自治区の防災対策や災害時の役割**」等について研究を行いました。そこで、自治区の防災対策や災害時の役割を明確にするために、以下の 2 点について各自治区に提言いたします。

■ 自治区の防災対策や災害時の役割を明確にするために ■

- ◆ 各地区の自治区は、自主防災会、避難所運営班及び指定避難場所となる学校・施設等の協力を得ながら、**事前に避難所運営の体制やルールを決めて**、避難所運営をスムーズに行えるように準備を進めておくこと。
- ◆ 各地区の自治区は、自主防災会や消防団、民生委員等と連携を図りながら、**住民参加型の防災訓練や防災ゲームを自治区行事に取り入れる**ように努めること。

1 経緯（背景）

平成 28 年 4 月 16 日に九州地方を襲った熊本地震では、最大震度 7 の激しい直下型の揺れにより多大な家屋被害が生じ、多くの尊い人命が奪われました。熊本県内の避難者は約 18 万人にものぼり、相次ぐ余震への不安と深刻な家屋被害により長期にわたる避難生活を余儀なくされました。

万が一、今回の熊本地震のような直下型地震が豊田市で発生した場合、その避難生活はどれだけ続くかわかりません。大震災の記憶がまだ新しい今だからこそ、今一度、自治区として取り組むべき防災対策や災害時の役割、避難所運営などについて考える（再認識する）必要があります。

そこで、来るべき東海地震や南海トラフ地震等に備え、現状の課題と解決策について研究することとしました。

2 現状の把握と課題

防災対策・災害対策を考える上でのキーワードとして「自助」「共助」「公助」があります。原則として、自分や家族の命は自分たちで守る「自助」が重要であることは言うまでもありませんが、自分でできることにも限界があります。そこで、近隣や地域がお互いに協力し合い、地域が一丸となって防災対策に取り組む「共助」が重要となります。

災害時には、自主防災会、消防団や民生委員等との連携が必要不可欠です。そこで、「共助」を考える上での現状の課題について小委員会を設置し、意見交換を行いました。

主な意見は次のとおりです。

- ・大規模災害が発生した際、慌てず的確な行動や指示がとれるか心配である。防災訓練などを通じて、実践力をつけることが重要である。
- ・災害はいつ起こるかわからない。昼間に災害が起きた場合は、現役世代の消防団員が地域にいない可能性が高い。
- ・地域や自治区によっては、防災意識や防災対策に差がある。近所づきあいを密にして、互いに助け合うことが重要である。
- ・民生委員一人あたりの負担が大きいのので、災害時に要支援者の安否確認や避難支援などを確実に行うことができるか心配である。
- ・被災状況の収集などの情報伝達・ネットワークが確立されていない。
- ・避難所が開設された場合に、自治区としてどのような役割が必要となるのか、どのような課題（リスク）が想定され、どのような対策（備え）が必要となるのか把握できていない。

3 解決策

2 であげられた現状の課題に対し、以下のとおり解決策（参考例）をまとめました。

解決策 1

各地区の自治区は、自主防災会、避難所運営班及び指定避難場所となる学校・施設等の協力を得ながら、事前に避難所運営の体制やルールを決めて、避難所運営をスムーズに行えるように準備を進めておくこと。

大規模地震などの災害時には、初動期の迅速かつ適切な対応が重要です。ハザードマップなどから事前に想定被害を確認し、地域の危険（リスク）や課題（困っていること）を認識したうえで、慌てず的確な行動や指示ができるように自治区の中での体制づくりやルールを決めておくことが望めます。

そこで、自主防災会、避難所運営班及び指定避難場所となる学校・施設等の協力を得ながら、地域の実情に合った防災マニュアルやハンドブックを作成したり、事前に避難所の体制やルールなどを決めるなど、避難所運営をスムーズに行うための準備を進めるように努めてください。

【例えば…】

- (1) 避難所運営ゲーム（HUG）や災害図上訓練（DIG）を実施し、各自治区や地域で想定される課題を把握する。
- (2) 想定される各自治区や地域の課題を踏まえ、地域の実情に合った防災マニュアルを作成したり、避難所運営に必要な体制・ルールを決めておく。

※参考資料

- <別紙1> 避難所運営ゲーム（HUG）、災害図上訓練（DIG）、ハザードマップ
<別紙2> 地域の実情に合った「〇〇地区 防災マニュアル（保存版）」【参考例】

解決策2

各地区の自治区は、自主防災会や消防団、民生委員等と連携を図りながら、住民参加型の防災訓練や防災ゲームを自治区行事に取り入れるように努めること。

防災訓練は、一過性のものではなく、継続していくことが重要です。地域が一丸となって、楽しみながら防災に取り組めるように、イベント的な要素を自治区行事など盛り込むなどの工夫をすることが望まれます。

そこで、子どもから大人まで、楽しみながら防災訓練に参加することができるように、自主防災会や消防団、民生委員等と連携を図りながら、自治区行事などで住民参加型の防災訓練や防災ゲームを積極的に取り入れるように努めてください。

【例えば…】

- (1) 防災訓練に競技やゲームの要素を取り入れた「防災運動会」や誰でも気軽に参加できる「防災体験会」を実施する。
- (2) 実際に避難場所を設営し、避難所生活を体験する「防災キャンプ」を実施する。

※参考資料

- <別紙3> 防災運動会や防災キャンプの開催
<別紙4> さまざまな防災訓練メニュー

※これらの取り組みについては、地域の自主防災会のリーダーや消防団の方に指導を依頼したり、豊田市の自主防災会活動支援制度や生涯学習出前講座などを活用すると効果的です。

4 総務委員（28名）

小委員会	構 成 委 員			
A	篠田 進弥（崇化館）	鈴木 重久（梅坪台）	鈴木 貞敏（浄水）	宮本 典生（朝日丘）
	今井 義雄（高橋）	丸石 敏憲（美里）	高村 伸一（益富）	—
B	中山 拓大（逢妻）	梅村 幸治（猿投台）	奥 二三夫（井郷）	羽根田信行（猿投）
	近藤 典彦（保見）	川井 秀和（石野）	中根 計二（松平）	—
C	中島 勝（豊南）	加納 克征（末野原）	都築 始（上郷）	星野 鈞（竜神）
	佐藤 博（若林）	花井 直樹（前林）	打田 力（若園）	—
D	中條 善朗（藤岡）	葭原 健作（藤岡南）	鈴木 茂生（小原）	小野 忠（足助）
	加藤 繁廣（下山）	井口 淳治（旭）	安藤 利行（稲武）	—

①避難所運営ゲーム（HUG：Hinanzyo Unei Game）



内 容	・避難者の年齢、性別、国籍や、それぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所に見立てた平面図に適切に配置するゲーム。 ・避難所で起こる様々な出来事にどう対応するのかなどをカード形式で模擬体験する。
ポイント	・避難所運営で発生する 問題（リスク）を事前に把握し、今後の対策（備え）に活かす ことができる。
その他	所要時間は90分～。中学生以上を対象に、21名以上で申込が可能。 講師派遣の申込・HUGセットの貸出依頼は、防災対策課（0565-34-6750）

②災害図上訓練（DIG：Disaster Imagination）



内 容	・地域の地理的特徴や危険箇所を把握し、地域の災害時の被害状況を予測することができる。 ・地域資源などを把握することで、地域の防災力を知ることができる。
ポイント	・地図上で地理的特徴、危険箇所を把握した後、実際に地域を歩くことで理解が深まる。
その他	所要時間は270分～。問い合わせは、防災対策課（0565-34-6750）

③ハザードマップ

地域の被害状況を想定する際には、地震や洪水等のハザードマップを参考にしてください。なお、豊田市の各種ハザードマップについては、豊田市のホームページに掲載されています。

豊田市役所 **ハザードマップ** で検索

【参考例】

ポイント

地域の地理的特徴や危険箇所などを把握し、地区コミュニティ会議や地域会議、各種団体や地域住民同士と協力しながら、各地域の実情にあった「防災マニュアル」を作成し、各家庭で活用してもらいましょう。

実際に作成された防災マニュアル

●「石野地区防災マニュアル」 石野地区

発行：平成27年2月（石野地区全戸配布）

内容：各家庭における災害対策、備蓄、災害時の行動と避難場所

地域内の協力体制や災害時の対策、避難所の組織体制、災害時の情報源



●「竜神地域防災ハンドブック」 竜神地区

発行：平成28年11月（竜神地区全戸配布）

内容：竜神地域の防災の取組、災害時の対応、非常用持出袋と備蓄、地域防災マップ、わが家の防災メモ等



ポイント

各地域がそれぞれの実情に合わせて「無理なく」「楽しみながら」「継続的」にイベントを実施することができるよう計画し、実施しましょう。

また、小学校区やコミュニティ会議単位など、他の自治区と合同で行うことで、自治区の負担も軽減することができます。

防災運動会の競技例

- 毛布や物干し竿等身近なものを利用してケガ人・病人を運ぶ「簡易担架リレー」
- チームの連携が大切な「バケツリレー」
- 救命措置や初期消火の訓練を実施しながらタイムを競う「防災障害物リレー」
- 炊き出し（給食・給水）訓練 等

実際に行われた防災キャンプ

●「防災キャンプ」 松平地区

日 時	平成28年7月30日（土）、31日（日） 松平中学校体育館・運動場にて実施
参加者	松平中学校生徒、職員、PTA役員、自治区関係者、消防団員等（約200名強）
内 容	防災講話、ドローン見学、防災体験学習
その他	主催：松平中学校、災害に強い松平を考える会（STMA-K） 協力：松平地区区長会、豊田市消防本部松平出張所、消防団第8・第9分団、 松平中学校育友会、SAKURAプロジェクト、(株)フカデン、豊田市防災対策課



●「避難所体験ナイト」 梅坪台地区

開 催	平成28年11月26日（土）、27日（日） 梅坪台中学校体育館にて実施
参加者	梅坪台地域住民（約40名）
内 容	段ボール間仕切り組立体験、アルファ米試食、防災ゲーム、防災講話（ほか）
その他	主催：梅坪台地区コミュニティ会議（まちづくり委員会） 協力：梅坪台中学校、梅坪台地域会議、豊田市防災対策課



さまざまな防災訓練メニューについて

種 類	訓 練 の 内 容
避難訓練	車イスを用いた避難訓練（車イスの貸出：豊田市社会福祉協議会） 車イスの取扱い方法や特性を学び、車イスの方の介助方法等を確認する。
	高齢者疑似体験セットを用いた避難訓練（セットの貸出：豊田市社会福祉協議会） 高齢者がどのように感じているかを疑似体験し、避難誘導・支援の仕方を学ぶ。また、災害時や平常時に高齢者にどのような配慮が必要であるかを確認する。
	妊婦体験セットを用いた避難訓練（セットの貸出：豊田市社会福祉協議会） 妊婦がどのように感じているかを体験し、避難誘導・支援の仕方を学ぶ。また、避難所等でどのような配慮が必要かを理解する。
	豊田市防災学習センター 暴風、地震、消火、煙脱出、119 通報体験を通じて、防災について理解する。
技能訓練	救命講座・応急手当指導 「いざ」というとき実際に行動できるように、心肺蘇生法や A E D の使用方法、止血法等について学ぶ。
	簡易担架づくり（指導訓練等は地域の消防団等へ依頼） 身近な資材を使って簡易担架を作り、負傷者の正しい搬送方法などを学ぶ。
	初期消火訓練（消火器）（水消火器・標的の貸出：豊田市・防災対策課） 「火事だ！」と周囲に知らせる、火元を狙う等初期消火のポイントを確認しながら、水消火器（訓練用消火器）を使用し、消火器の取扱い等を学ぶ。
	初期消火訓練（バケツリレー・水パック） 運んだ水の量を競ったり、火元に見立てた的に向けて水パックを投げ、的へ投げる距離を競うなど、初期消火の方法を競技形式で楽しく学ぶ。
	炊き出し（給食・給食）訓練 ライフラインに制限がある場合に各自でできる給食・給水の方法を習得する。また、自主防災会等で備蓄している給食用品の使用方法を学ぶ。
避難所運営訓練	間仕切りの設置訓練 プライバシーの確保のために、段ボールや新聞紙等の身近にあるものを活用して間仕切りを設置する方法を学ぶ。
	仮設トイレ製作・設置訓練 災害時に困ることの 1 つでもあるトイレ対策。段ボールやビニールシートなど、身近にあるもので仮設トイレが作れることを理解する。
講 習	防災ビデオ・DVD 視聴、防災セミナー講演会（問合せ：豊田市・防災対策課） 映像を通して災害や防災対策のイメージをつかんだり、自分でできる防災対策や自主防災活動の進め方についての講演を聞くなど、視聴・傍聴を通じて行動に移すきっかけをつくる。

※これらのメニューについては、「自主防災会のための防災訓練マニュアル」からの抜粋したものです。なお、こちらの防災訓練マニュアルは、豊田市のホームページに掲載しています。

豊田市役所 自主防災訓練の支援

で検索

